

## 第 4 章 ■ 日付の関数と IF 関数

### STEP 1. 現在の日付 TODAY (トゥーデイ)

1. セル「B2」に TODAY<sup>かんすう</sup>関数<sup>つか</sup>を使い<sup>げんざい</sup>現在の日付<sup>ひづけ</sup>を入力<sup>にゅうりょく</sup>しましょう

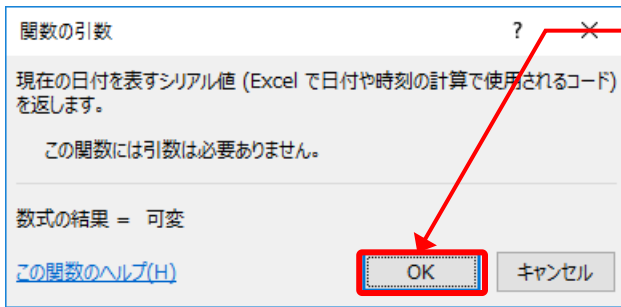
1 エクセルを起動し、シート<sup>きどう</sup>のフォントを「MS Pゴシック」フォントサイズを「14」にします。

2 セル「B2」を選択<sup>せんたく</sup>します。

3 「数式」<sup>すうしき</sup>をクリック<sup>きく</sup>します。

4 「日付/時刻」<sup>ひづけ/じこく</sup>をクリック<sup>きく</sup>します。

5 「TODAY」をクリック<sup>きく</sup>します。



6 「OK」をクリックします。

Book1 - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 表示 実行したい作業を入力してください

関数の挿入 オート最近使用した関数 財務 論理 文字列操作

関数ライブラリ

名前管理 数式で使用 選択範囲から作成 定義された名前

B2 =TODAY()

TODAY 関数が入力されました。

今回は「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=TODAY()」と打ち込んでもかまいません。

現在の日付が表示されました。

## ポイント TODAY (トゥデイ) 関数

現在の日付に対応するシリアル値を返します。

TODAY()

## 練習問題

- セル「D2」に TODAY 関数を使って今日から 10 日後の日付を表示しましょう。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3									
4									
5									
6									

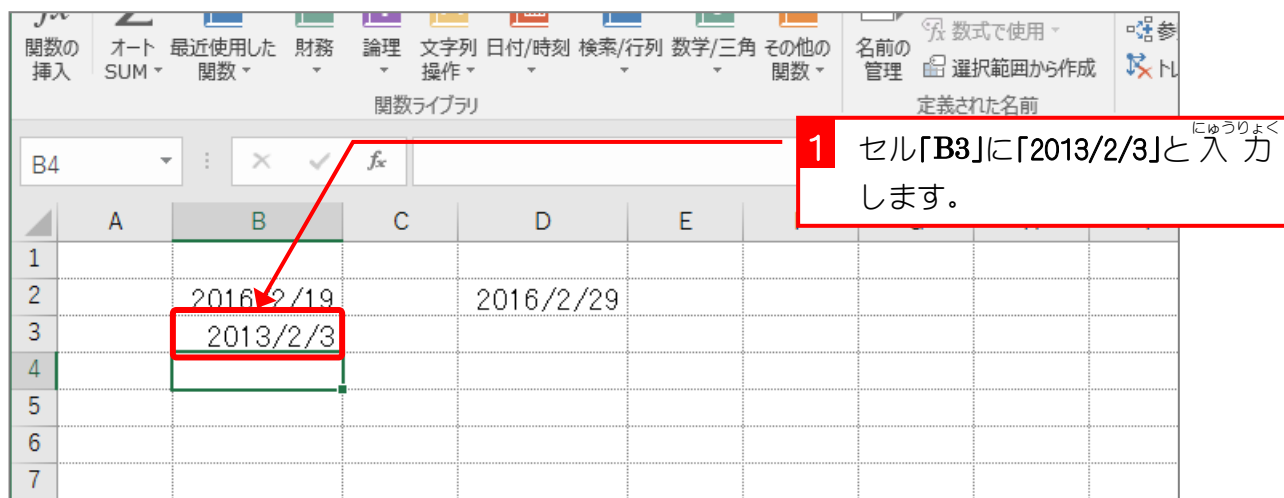
日付はテキストとは異なります。

ヒント

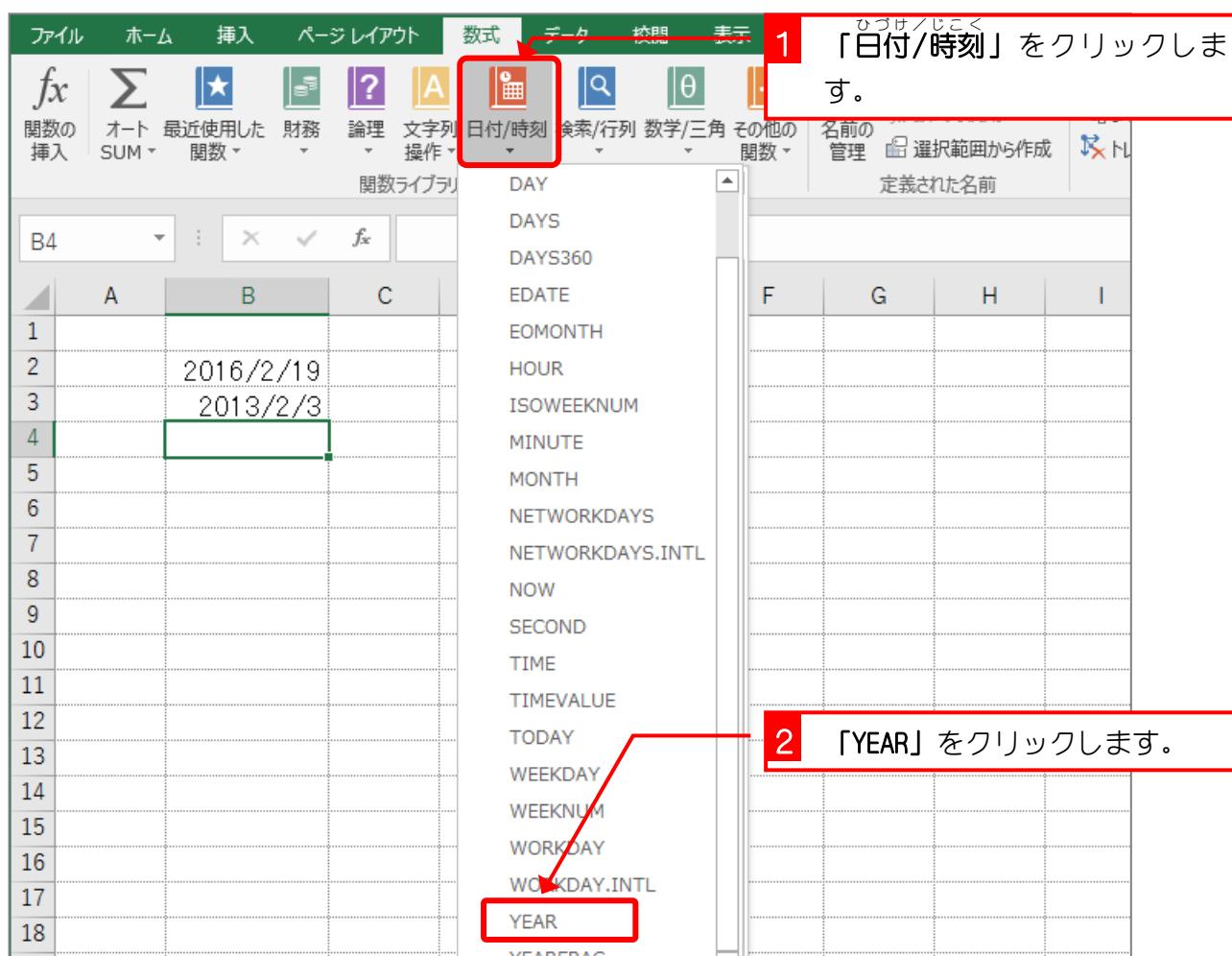
今日から 10 日後の日付は TODAY() + 10 で計算します。

## STEP 2. 日付から西暦を取り出す YEAR (イヤー)

1. セル「B3」に日付「2013/2/3」を入力しましょう



2. セル「B4」に YEAR (イヤー) 関数を使いセル「B3」の日付の西暦 (2013) を表示しましょう



YEAR    X   ✓   *f*   =YEAR()

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		=YEAR()							

**3** セル「B3」をクリックします。

関数の引数

YEAR

シリアル値  = 数値

=

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#)    OK    キャンセル

## 参考 「関数の引数」ダイアログボックスが邪魔になる時は

ダイアログボックスが邪魔になる場合はダイアログボックスを小さくしましょう。

関数の引数

YEAR

シリアル値  = 数値


=

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定します。

数式の結果 =


[この関数のヘルプ\(H\)](#)    OK    キャンセル


**A** シリアル値の  をクリックすると小さくなります。

関数の引数

?

X



**B**  をクリックすると元の大きさにもどります。

関数の引数

YEAR

シリアル値  = 41308

=

2013

年を 1900 ~ 9999 の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻コードを指定

数式の結果 = 2013

[この関数のヘルプ\(H\)](#)    OK    キャンセル

**4** シリアル値が「B3」になったことを確認します。

**5** 「OK」をクリックします。

YEAR 関数が入力されました。

「2013/2/3」の西暦部分「2013」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=YEAR(B3)」と打ち込んでもかまいません。

## ポイント YEAR (イヤー) 関数

日付に対応する年を整数で返します。

ひづけ  
YEAR (日付)

## 解説 関数の引数 (ひきすう)

関数を呼び出す時にその関数に渡す値を「引数」と言います。YEAR関数の場合「日付」が「引数」になります。YEAR関数は「引数」として日付の値を受け取り、その日付から西暦の値を計算し、計算結果を呼び出したところに返します。

「引数」は「YEAR (B3)」のように関数名の後に ( ) を付けて記入します。TODAY関数は「引数」を必要としない関数ですが、引数がない場合でも ( ) を省略せず TODAY ( ) と書きます。

## STEP 3. 日付から月を取り出す MONTH (マンス)

- セル「B5」に MONTH (マンス) 関数を使いセル「B3」の日付の月の「2」を表示しましょう

1 セル「B5」を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		2013							
5									
6									
7									
8									

2 「日付/時刻」をクリックします。

3 「MONTH」をクリックします。

	A	B	C
1			
2		2016/2/19	
3		2013/2/3	
4		2013	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

関数ライブラリ

MONTH : X ✓ fx =MONTH()

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		2013							
5		=MONTH()							

関数の引数

MONTH

シリアル値 B3 = 41308

= 2

月を 1 (1 月) ~ 12 (12 月) の範囲の整数で返します。

シリアル値 には Microsoft Excel で使用される日付/時刻

数式の結果 = 2

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

Book1 - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 表示 実行したい作業を入力してください

関数の挿入 SUM 最近使用した関数 財務 論理 文字列操作

関数ライブラリ

B5 : X ✓ fx =MONTH(B3)

1	A	B	C	D	E
2		2016/2/19			
3		2013/2/3			
4		2013			
5		2			

MONTH 関数が入力されました。

「2013/2/3」の月の部分「2」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=MONTH(B3)」と打ち込んでもかまいません。

**ポイント** MONTH (マンス) 関数

ひづけ たいおう つき せいすう かえ  
日付に対応する月を整数で返します。

ひづけ  
MONTH (日付)

## STEP 4. 日付から日を取り出す DAY (デイ)

- セル「B6」に DAY (デイ) 関数を使いセル「B3」の日付の日の「3」を表示しましょう

1 セル「B6」を選択します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		2013							
5		2							
6									
7									
8									

2 「日付/時刻」をクリックします。

3 「DAY」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1									
2		2016/2/19							
3		2013/2/3							
4		2013							
5		2							
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									



関数の挿入 オート最近使用した財務 論理 文字列 日付/時刻 検索/行列 数学/三角 その他の関数 名前管理 数式で使用する範囲から作成

関数ライブラリ

DAY : × ✓ f\_x =DAY()

1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		2013							
5		2							
6		=DAY()							

関数の引数

DAY

シリアル値 B3 = 41308

= 3

シリアル値に対応する日を 1 から 31 までの整数で返します。

シリアル値には Microsoft Excel で日付や時間の計算に使用される日付コードを指定します。

数式の結果 = 3

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

4 セル「B3」をクリックします。

5 シリアル値が「B3」になったことを確認します

6 「OK」をクリックします。

Book1 - Excel

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 表示 実行したい作業を入力してください

fx Σ ☆ ? A 三角 その他の関数 名前管理 数式で使用する範囲から作成 定義された名前

関数の挿入 オート最近使用した財務 論理 文字列 日付/時刻 検索/行列 数学/三角 その他の関数 名前管理 数式で使用する範囲から作成

関数ライブラリ

B6 : × ✓ f\_x =DAY(B3)

1									
2		2016/2/19		2016/2/29					
3		2013/2/3							
4		2013							
5		2							
6		3							
7									

DAY 関数 が 入力されました。

「2013/2/3」の日部分「3」が表示されました。

「関数ライブラリ」を使って入力しましたが、キーボードから直接「=DAY(B3)」と打ち込んでみてもかまいません。

**ポイント** DAY (デイ) 関数

日付に対応する日を整数で返します。

ひづけ  
DAY (日付)

## STEP 5. 2つの関数を組み合わせて使う

- セル「D4」に TODAY<sup>かんすう</sup>関数と YEAR<sup>かんすう</sup>関数を使い、今日の日付の西暦<sup>ひょうじ</sup>を表示しましょう

